即石淵

足柄山の麓、鮎沢川をとりまく自然。

やさしい里の人々。

これらに包まれて育った坂田金時こと、

私たちが誇りにしている伝説です。足柄山の金太郎は、町の英雄。

のは昭和の初めのことです。の金太郎」が一躍時代のスポットライトをあびたの金太郎」が一躍時代のスポットライトをあびた

時代の要請で地域の教育力発掘が大きく叫ばれたこのころ、当時、成美小学校校長を務めていたたこのころ、当時、成美小学校校長を務めていたは、学社から世に出ました。翌年には、甘露寺国民文学社から世に出ました。翌年には、甘露寺国民文学社から世に出ました。翌年には、甘露寺国民文学社から世に出ました。翌年には、甘露寺国民文学社から世に出ました。翌年には、甘露寺国民文学社から世に出ました。翌年には、甘露寺国民文学社がりました。文部省制定修身教科書には「金太郎」が取り上げられ、その誕生地が「小山」で太郎」が取り上げられ、その誕生地が「小山」で太郎」が取り上げられ、その誕生地が「小山」であることも指導書に明記されました。

るようになります。 若葉五月を期して「金時まつり」が盛大に行われ 社が建てられ、金時公園も造られました。そして、 太郎が生まれた家と言われる金時屋敷跡に金時神 本のが生まれた家と言われる金時屋敷跡に金時神

送しています。 つて、金時神社式典や子どもわんぱく相撲などが 現在では5月3日に「富士山金太郎春まつり」と 戻るのでした。

まっかな赤ん坊

里に住むようになりました。 京都から来た八重桐という名の山姥が、 中島の

ある日の金時山中、 八重桐は夢の中で、 赤い龍と結ばれ

赤ん坊を宿しました。

坊の無事を祈りました。 山をおりると、白い着物一枚で滝に打たれ、 お腹の赤ん

と共に、まっ赤な体の男の子が生まれました。 月満ちた五月のある日、 八重桐のお腹から、 大きな産声

子迎えの夕日



育っていきました。 赤ん坊は金太郎と名づけられ、 お乳をよく飲み、丈夫に

から大きく見えてきます。 金太郎の遊び場は、山や沼。 八重山の峰伝いに足柄峠を駆け登ると、富士山が麓 屋敷のある中島から生土へ

母さんが持たせてくれたおにぎりをほおばりました。 たり、けもの同士で相撲を取らせたりして遊んだあと、 日が暮れる前に、薪を取ると、峠をおります。生土まで 山では、けものたちが待っています。クマと相撲を取っ 金太郎はここから眺める富士山が大好きでした。 夕焼けで赤く染まった道を、 八重桐が金太郎をいつも待っていました。 ふたり手をつないで屋敷 お

金時屋敷 中島地区

ります。坂田には3軒あって、その あると言い伝えられています。 中の1軒が坂田公時の生まれた家で 屋敷は山のすぐ裾にありましたが 中島に「坂田」と称する小字があ

汲んだ「ちょろり七滝」、金時が登っ 母子が深く信仰した「第六天神社 ます。園内には、金時の産湯に水を が建てられ、現在は公園になってい 現在は下の段に移転し、元の屋敷は て遊んだ「金時杉」(二代目)、金時 金時屋敷」と呼ばれてきました。 昭和9年、この屋敷跡に金時神社









金時山 ー、二一三メートル

ばれるようになりました。 びに登ったことから「金時山」と呼 れていましたが、金時がしばしば遊 びえています。「猪鼻ヶ嶽」と呼ば かっこうをして、箱根連山の上にそ ノシシが鼻を空へ突き出したような 金時山は、箱根火山の外輪山でイ

踏み割ってすべらせてしまったとい び石」や、クマと相撲をとった時 う八畳敷きくらいの平らな大岩「遊 金太郎がいつも登っては遊んだとい 祀った猪鼻神社があります。また、

います。 が残って などの話 割り石



遊女の滝 小山地区

ていました。 の健康を祈願して、この滝に打たれ で、足柄峠へ向う途中にあります。 母・八重桐が、お腹の中の金太郎 駿河小山駅の南側の大沢林道沿い



11 重 桐 0) 0 西己

山 へも出掛けるようになりました。 金太郎は大きくなってくると、 八重桐も知らない遠くの

み、 赤く腫れあがり、 無事に帰って来ると、 て、 崖から落ちたのか、 ある時、 今度は嬉し泣きしました。泣き過ぎて、 その晩も、 金太郎が山から帰って来ない日がありました。 次の日も泣いて過ごし、 ちくちく痛みました。 けものに襲われたのか…八重桐は心配 金太郎の真っ赤な丸顔を両手ではさ 三日目、 目もまぶたも 金太郎が

温泉へ八重桐を連れて行き、 金太郎は申し訳なく思い、 湯治をさせました。 その目を治すために、 箱根の

太郎は母に心配を掛けないように、 で以上に精を出し、 季節が変わる頃、 体も心も大きく育っていきました。 八重桐の目はすっかり治りました。 薪取りや畑仕事に今ま 金

沼子の池

は空高く跳ね上がりました。これ んで抱きついたところ、 が大きな緋鯉を見つけ、 この池に水浴びに来ていた金太郎



した。 描かれる由 縁になりま に金太郎が

湯船・柳島地区 驚いた緋鯉 池に飛び込

滝です。足柄駅の東側から地蔵堂川 沿いに林道を歩きます

5月の





爪切地蔵 竹之下地区



れは、

金太郎が金時山へ登る時にサ

待合と呼ばれる小字があります。こ

小山から足柄峠へ登る途中に、

猿

猿待合

小山地区

ルと待ち合わせたところです。

途についた金太 桐とともに、帰 やした母の八重 湯で目の病を癒 箱根の姥子の

地蔵さまを思い出して、 で彫ったものです。 郎が足柄峠のお 石の面を爪

頼光対面の滝 足柄地区

金太郎が初めて源頼光と対面した



郎を武将にしたいと思っていましたから、

頼光の家臣は金太郎を大変気に入り、

八重桐もまた金太

金太郎は頼光に

子産明神 あきか<mark>え</mark>

いて都へ行くことになりました。

金太郎は、

山に一人で残る母がさみしくないようにと、

いました。 けました。

都の武将源頼光が下総から京都

お

别

れ

0)

桜

足柄峠にさしかかると、

不思議な赤い色をした雲を見つ

へ帰る途中のこと。

雲を目指して山道を進むと、

金太郎親子に出逢

金太郎のふるさとMAP

八重欄の池

1010

12寛 月 15 日

町)にて、重い熱病

重い熱病にかかり亡くなる

勝田

(岡山県勝央

55歳

九州の賊を征伐するため頼光と四

屋敷に山の桜を一本植えて行きました。 八重桐をなぐさめてくれることでしょう。 も別れを告げました。 春には花が咲い 山のけものたち

に

とです。 んの手柄をたて、 へ行った金太郎は、 日本中にその名をとどろかせたというこ 頼 光 0 四 天王の一人としてたくさ

金太郎年表

	9 9 0			9 7 6			966	9 5 6	西曆	
	永祚2年			3月 1日 日			康保3年	天暦 10 月	元号	
でフラフラになる 賀茂の祭で初めて牛車に乗り、車酔い	倒してまわったその後も全国をまわり、鬼や賊を酒天童子を征伐	貞光らと共に頼光四天王に名を連ねた京へのぼり、渡辺綱・卜部季武・碓井	坂田金時に改名	力量を認められて家来になる足柄峠で源頼光と出逢う	母の湯治のため、箱根姥子温泉に通う	後の鯉のぼりのモデルになるその際に空高く跳ね上がり、発見し捕獲が島の沼子池で大きな緋鯉を	金時山にて熊と相撲を取り見事大勝利	小山町中島で元気な産声をあげながら 1歳	金太郎の出来事	
	35 歳			21			11 歳	1 歳	金太郎の年齢	

町民インタビュー



聖也くん 鈴木 (宿)

今年5月に行われた、第48回富士山金 太郎春まつりの相撲大会で優勝しました。 「好きなスポーツはサッカーやマラソンで す」との答えながら、どんなことにもがん ばって挑戦している聖也くん。お父さんの 励ましを受けて、相撲も一生懸命練習し見 事、御殿場小山の代表として県大会にも出 場しました。

今後の目標は来年1月の町内一周駅伝大 会とのこと。寡黙に、ひたむきに取り組む 姿は、まさに「金太郎」です。



くりから 栗柄神社

の中心部「勝間田」は、かつて出沿って開けた自然豊かな町です。

かつて出雲

町

穏やかに傾斜する丘陵が起伏し、

中

脈の主峰那岐山の南にあり、 積4・09平方キロメートル。

北部は 中国山

南部は町を南北に貫流する滝川に

として知られています。

往来でにぎわった美作7宿のひとつ

厚い看病を受けましたが、そのかい 筑紫 い熱病にかかり、頼光や四天王の手 仮城を造り、滞在中、 中、作州路美作で大雪にあいました。 天王は、寛弘7年(1010年)、 勝田壮(現在の岡山県勝央町)で (現在の北九州市) へ向かう途 12月15日亡くなりました。 坂田金時は重

しています。

勝央町は、

岡山県の東北部に位置

人口およそ11、500人、

面

坂田公時の霊をおまつりしています。

月 24 日、 と神社のある岡山県勝央町 金時が取り持つ縁で、昭和48年11 金時終焉の地と称され、 その墳墓

のイベントとして「金時祭」を開催 た。毎年10月上旬には、 同町と姉妹縁組を結びまし 勝央町最大